

外部評価

令和4年度 阪本小学校外部評価報告書

評価委員：安西委員長

塚越委員、今野委員、田村委員、本橋委員、山田委員、江本委員 坂間委員 石橋委員
報告書作成者：坂間委員

評価時期 令和5年2月2日

・全体的に8割以上がA・B評価になっており喜ばしいが、ほんの数%ではあっても、子どもの不安や悩み、保護者の不満等を見逃さず、全力で対処するという姿勢は今後も続けていってほしい。

1 重点目標の評価

<重点目標1について>

- ・家庭学習についての評価が高く、子どもたちに家庭学習の習慣ができていることが読み取れる。家庭学習キャンペーン等の取り組みの効果がであると思われる。
- ・教育におけるICT機器の活用については、保護者の考える活用法と現場での日常での活用法については隔たりがあると考えられる。ツールの一つとしてタブレットPC等を使いこなしている姿を何かの機会に発信できるとよいと思われる。

<重点目標2について>

- ・今年度より縦割り班活動を再開したと聞き、安心した。家庭や地域での遊びや学びの中で、異学年で交流する機会がほとんどない子どもたちなので、どの学年の子どもたちも大いに学ぶことがあると思われる。これからもぜひ充実させていってほしい。

<重点目標3について>

- ・伝統文化理解教室の評価が非常に高いことが大変喜ばしい。阪本小学校の特色ある伝統の一つでもあるので、これからも大切にしていってほしい。
- ・伝統文化理解教室のように、保護者が直接見たり、聞いたりできるものについては非常に評価が高くなっている。コロナ禍の影響が減少し保護者の参観する機会が増えれば、金融教育・キャリア教育等の取り組みへの理解も深まると考えられる。

2 今後の改善に向けた意見

- ・日頃の「あいさつ」を通じて思いやりの心と友達との信頼感、協力関係を築くことを重要視していることに感銘を受けている。昨今のあいさつに対する意識は一般社会においても大変薄れてきており、学校教育による意識の改革に期待したい。

3 その他の意見

- ・学校からの発信が紙だけでなく、タブレット、スマートフォン等で行えるようになったが、保護者が活用しやすい方法で発信できるように計画的に進めてもらいたい。
- ・学校のきまりを守れているかの自己評価が低い児童については、配慮が必要である。心の教育や自己肯定感を高めるための取り組みを充実させてほしい。